

# 大学生の授業支援のツールとしてのフェイスブックの使用状況と認識調査

## College Students' Usage and Perceptions of Facebook as an Instructional Tool

チェ, スッキョン CHOI, Sook-kyoung

● 国際基督教大学大学院アーツ・サイエンス研究科

Graduate School of Arts and Sciences, International Christian University



Keywords

ソーシャルネットワークサービス, フェイスブック, 学習者認識, 学習環境

Social Network Service, Facebook, Learner's perspective, Learning environment

### ABSTRACT

ソーシャルネットワークサービス（SNS）は大学生にとって重要な生活の一部となりつつある。特にフェイスブックは世界的に人気のあるサービスであり、高等教育における教育利用の研究が増えてきている。SNSの教育利用では、学習者間の相互作用を高め、人間関係を深めることによる学習効果が期待されている。しかしながら一方ではプライバシーの問題により学習に用いることに抵抗を示す問題も生じてきた。そのため、本研究はSNSを大学教育に導入するにあたって、その果たし得る教育的役割と考慮すべき点を明らかにすることを目指した。この目的のために、本研究では大学生を対象としたオンライン調査を実施した。特にフェイスブックに焦点を置いて、大学生がどのようにフェイスブックを用いているか、日常的な状況と教育的用途について調査した。また、フェイスブックを授業を支援するツールとして用いることについてSD法を用いて学生の認識を分析した。結果として、フェイスブック等には交流促進機能、情報のやり取り、共同作業の場としての機能が認められる。しかし、学生は教員とフェイスブック等を通して相互作用することに抵抗を感じていることから、この問題を解決するための指針を考察した。

Social network services (SNS) have become an essential part of college student life. Facebook in particular is considered to be the most popular media, and much research has highlighted the values of Facebook in higher education. On the other hand, debates are heating up over students' privacy and negative attitudes toward the

use of personal SNS for learning. This study attempts to discuss both the educational effects and limitations to be considered when incorporating Facebook into an educational context. To achieve its goals, this study surveys college students. Specifically, it investigates how students use Facebook in terms of both personal and educational applications. In addition, it analyzes the students' perceptions of Facebook as an instructional support tool, with a particular focus on the semantic differential scale. This paper concludes that Facebook can support learning and teaching by facilitating interaction between students and by providing an environment for information sharing and collaboration. It has also been revealed that students feel burdened when interacting with teachers over Facebook, however. This study provides guidelines on how such burdens might be relieved.

## 1. 研究背景と目的

ソーシャルネットワークサービス (SNS) は自分の意見を表現し、他人との関係を形成、情報を取得するツールとして広まっている。特にフェイスブックは利用率が高く、最も影響力のあるサービスとして注目されている。Smith と Caruso (2010) の統計では米国大学生の85%から99%がフェイスブックを使っていると報告している。そして、マイナビ (2012) 調査によると日本の大学生が最も多く使っているSNSはミクシィだが (53%)、フェイスブックとツイッターの使用が急増していると報告された。

フェイスブックのようなSNSを活用して高等教育を支援する効果を検証しようとする研究が展開されている (Smith & Caruso, 2010)。Ajjan & Harshorne (2008) はSNSが学習者の相互作用、協力学習、参加度、知識共有、そして批判的思考力を強化する効果があると主張した。そして、Marzer, Murphy, & Simonds (2007) の研究によれば、大学生がフェイスブックで教員の自己開示 (self-disclosure) を経験するほど動機づけが行われ学習成就が高まるという結果が得られた。

高等教育分野でSNSを導入することに対する価値が強調される一方で、学生たちがフェイスブックを学習のために活用することに抵抗を示すことや、プライバシー侵害を問題とする議論もある (Jones, Blackey, Fitzgibbon, & Chew, 2010)。実際にCole (2009) はウィキのようなソーシャルメディアを大学生の協力学習を支援するために導入

した研究が失敗したことを報告した。彼はその原因を、ウィキを教育的に使った時、ウィキを個人的に使った以前と比較してウィキに対する認識が否定的になることを指摘した。また、教育環境と授業を設計するにあたり学習者についての分析が必要だが、Jonesら (2010) は様々の研究がSNSを教育環境に導入する際に、教育的要因を考慮しないという問題点を指摘した。Dick, Carey, & Carey (2009) はメディアを授業に導入する際には学習者のメディアに対する知識とスキルを分析するのは重要だと主張した。

これらのことにより、本研究ではSNSの中でフェイスブックまたはミクシィ (以下、フェイスブック) に重点を置き、大学で教員が授業にフェイスブックを導入するのに要求される適切な条件が何か、そして期待される教育的役割は何かを分析することにした。ミクシィをフェイスブックに含んだ理由は、二つが似ている環境とサービスを提供しているためである。この目的のために、大学生がフェイスブックを日常的にどのように使っているのか、フェイスブックを通じて学習と関連がある活動をしているのか、そして教員が授業を支援する手段としてフェイスブックを活用することに対する学生の認識に関するアンケート調査を実施し結果を分析した。

## 2. 研究方法と手続き

本研究はアンケート調査の質問項目開発、アンケート調査の実施、結果分析の3段階で行った。

### 2. 1 調査質問項目開発

調査は回答者の個人情報、フェイスブックのSNSの一般的な使用状況、フェイスブックの教育的活用現況、そして教師がフェイスブックを授業で活用することに対する認識を問う全24項目の質問で構成した。

フェイスブックの日常的な使用状況に対する質問は、Towner & Munoz (2011) の研究で使われた質問項目を本研究の目的に合うように修正し、日本語に翻訳して開発した。そして、フェイスブックの教育的活用状況に対する質問は、先行研究を分析し、1人の学生へのインタビューを通して学習と関連があるフェイスブック活動を整理し、各活動の経験の有無を4段階のリッカート尺度で答える形で開発した。教師がフェイスブックを授業で活用することに対する認識調査については、文献分析と1人の教員へのインタビューを通して教員がSNSを授業支援の道具で活用するシナリオを整理し、各シナリオに対する大学生の認識を4段階のSD法を用いて質問した。SD法は被験者の認識の多面的に調査できる方法である。

開発した質問項目を大学生2人と大学院生1人の合計3人を対象にパイロットテストを実施し、妥当性と信頼度を検証した。

### 2. 2 オンラインアンケートの調査環境と実施方法

本研究は「Google ドキュメント」を用いたオンラインアンケート調査環境を構築した。質問はフェースシート、フェイスブックの日常的活用現況、教育的活用状況、認識調査の4パートで構成した。フェースシートのパートでフェイスブック又はミクシィの利用者と答えた場合には、残りの3つのパートをすべて回答してもらい、非利用者の場合には最後の認識調査のパートのみを答えてもらった。そして、必要とされるすべての質問項

目にもれなく答えることで回答が終了できるようにした。

本研究ではフェイスブックの活用状況を調べるために、J. A. G Japan (2011) により国内でフェイスブック活用率が最も高いと報告されたI大学(学生数2929人)を調査対象とした。実施期間は6月11日から22日の2週間の間とし、大学のオンラインの学生用自由掲示板を通じてオンラインアンケートのURLを公開し、任意の時間に調査に協力してもらった。

## 3. 研究結果

### 3. 1 回答者の特性

オンライン調査に協力したのは107名であり、これはI大学全在学生の3.7%にあたる。回答者の性別は女性が76%、男性が24%であった(大学全体の性別比率は女性63%、男性37%)。学年別では1学年28%、2学年33%、3学年25%、4学年11%、大学院生4%であった。主に使っているSNSについては86%が「フェイスブック」、2%が「ミクシィ」と答え、「その他」と答えた10%は全員がツイッターを使っていたことが分かった。「使っていない」と答えたのは3%であった。

### 3. 2 フェイスブックの使用状況

フェイスブックを活用していると答えた回答者のSNSの使用状況は以下の通りであった。

フェイスブックを使うのに用いる主な端末については、ノートパソコンが最も多い50%であり、スマートフォン23%、フューチャーフォン15%、デスクトップPCの11%と続いた。

1日にフェイスブックを使用する時間は、10分以上から30分未満が28%で一番多く、次が30分以上1時間未満の22%であった。

フェイスブックを主に使用するタイミングについては、52%が「決まっていない」と答え、その次に多いのは40%の「帰宅後」であった。主に使用する時間帯についての質問に対しては77%が午後9時から12時の間と答えた。次に多いのは午後6時から午後9時以前と午前0時から3時以前の

32%であった。すなわち、帰宅後夜の遅い時間にフェイスブックを活用していることが分かった。

フェイスブックを使用している目的について複数回答で聞いた。多かった回答は学校の友人と連絡のための76%、普段会うことが難しい人々との連絡のための72%であった。一方、オンライン上の新しい友人を見つけるためという答えは最も少なく3%であった。その他には、時間をつぶすための47%、ニュースや新しい情報を得るための35%、クラブなどのグループ活動に参加するための28%、自身の意見や考えを表現するための16%という回答であった。

### 3. 3 フェイスブックの教育的使用状況

現在フェイスブックを授業と関連してどのように使っているかについて調べた（図1）。最も多かったのは「友人と授業の連絡事項を教えたり聞いたりする」の63%であった。その次は「同じ授業を受講している学生と親しくなる」の58%、「授業でのグループ活動に活用する」の49%が続く。一方、「授業と関連した資料を共有する」と答えたのは41%に留まった。そして難しい授業内容や課題などについて「友人に質問する」、「友人を助ける」と答えたのは両方とも38%であった。

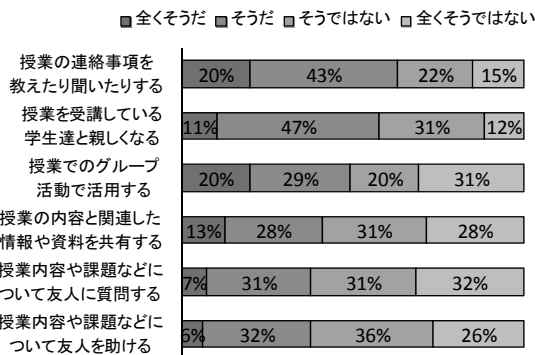


図1 フェイスブックの授業に関連した使用状況

### 3. 4 授業支援のツールとしての活用についての認識調査

結果は授業と直接関係する活用と関連しない活用とで傾向に差が現れた。まず、教師が授業と直

接関係してフェイスブックを活用することについての結果を図2に示す。「価値がある」「役に立つ」「便利だ」「効率的だ」のような、効果に対する態度を意味する尺度のグループで、肯定的に考えている割合が60%～75%程度と高かった。一方、認知的負担の少なさを意味するグループ中の「気楽だ」と肯定的感情を意味するグループ中の「安心」では、肯定的に回答する割合が50%以下で低かった。

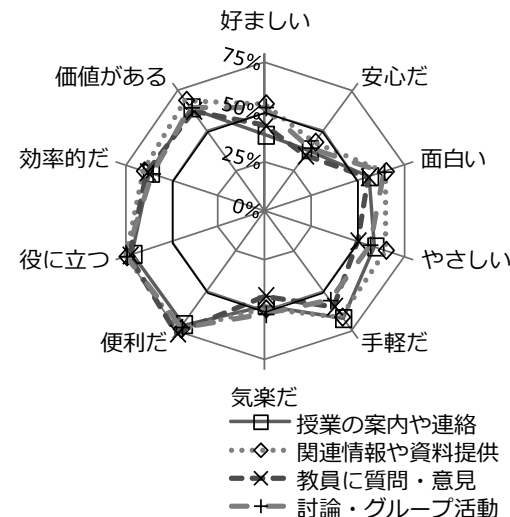


図2 授業に直接関係する活用に対する認識

そして直接授業とは関係なく、教師と日常生活を共有することに対する認識について図3に示す。効果があると認識、認知的負担の少なさ、感情的肯定感のすべてのグループの中で肯定的に答えた割合は少なかった。教師がフェイスブックの友人登録を要請することに対する認識では、「価値がある」「役に立つ」「効率的だ」と答えた比率が高かったが、「このまじい」「安心だ」において比率は低かった。

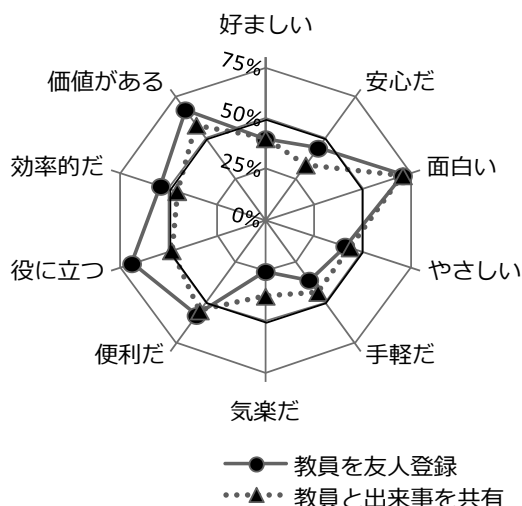


図3 授業と直接的に関連しない活用に対する認識

#### 4. 考察

本研究はSNSを大学教育に導入するにあたって、その果たし得る教育的役割と考慮すべき点を明らかにすることを目指した。そのためにまず、大学生のフェイスブックの利用者を対象としてSNSの利用状況を調査した。SNSの利用状況を知ることから、どのような形態の教育的利用が可能かを考えることができるからである。

SNSの使用目的は、学校の友人とともに普段会えない知人と連絡する用途と捉える人が多数であり、人間関係を維持する役割が大きいことが分かる。教育的利用を考える際には授業だけでした顔を合わせない受講者間の人間関係を強化する用途として期待できる。また、このような密接で狭い情報共有に対して、情報を広く発信する用途として考える人は少なく、さらに自分の意見を表現しようとする人は、ニュースの外部の情報を紹介する人より少数派である。このことから、自分の考えを表明するような活動よりは、集めた情報をまとめるような活動が取り組みやすいと考えられる。

SNSの利用機会は、随時利用しているという人が多いものの、帰宅後中心の人も40%おり、スマートフォンなどの携帯情報機器の利用率を考慮

しても、リアルタイムに見ることができない人が大部分である。そのため、授業の連絡に用いるにも緊急連絡には向かず、時間に余裕を持って発信する必要がある。またSNSの利用時間を見ると、夜9時以降の3時間に多数が集中して利用している時間帯がある。この時間帯を活用すれば、学生同士が時間を決めてログインすることでリアルタイムに議論を進めるの同期的な共同作業が可能である。

SNSを利用するための機器は、モバイル機器（ノートパソコンやスマートフォン）が大部分を占める。大学内でノートパソコンを持ち寄って話し合いをする風景が見られるが、そのような対面活動において会議録を残す用途にもSNSは有効と考えられる。最近ではスマートフォンアプリ・タブレット端末アプリのフェイスブック連携機能が一般化しており、成果物の共有がやりやすくなっている。

このようにSNSには交流促進機能、情報のやり取り、共同作業の場としての機能が認められる。これらの機能が現時点でどの程度教育的活動に利用されているかを調べた。

SNSを活用した授業を経験した人はわずか4%ではあったが、約半数の人がすでに何らかの形でSNSは授業に役立っていることが分かった。授業の連絡事項の共有や受講生同士が親しくなるような授業を外部から支援する用途の利用者が比較的多く、授業の資料や宿題や分からない問題について教えあうといった授業の内容に直接的に関わる利用については比較的小さい傾向が見られた。

大部分の学生にとってSNSを授業に活用することは未知の事柄ではあったが、用途別にどのような感覚を持っているかその認識を探った。

教員を友人登録することは、すでに30%が経験はしていたものの、全般的に抵抗感を感じる人が多かった。しかしながら面白い・役に立つ・価値があるとその可能性を感じる人が多いことも注目すべきことである。さらに出来事を共有して親交を深めることに関しては面白さを認めるものの、不安感が大きかった。

研究結果は教師と学生間に親密な関係を形成す

るには学生の否定的な認識を解消する必要があることを示した。簡単な方法としてはフェイスブックに授業グループページ利用する方法がある。これは学生が教師とフェイスブックの友人登録をする必要がなく、プライバシーを共有することの負担感を減らすことができる。そのように、はじめの段階として教師が学生たちにフェイスブックを通じて情報を提供する目的に重点を置き、その後の段階では学生たちとの相互作用を増やして緊密な関係を形成することを提案する。また、このような問題を解決するために、プライベートな情報を分離して安全に用いることができる教育用のSNS「edmodo (エドモド <http://www.edmodo.com>)」が開発されている。edmodoは、教師と学生が無料でアカウントを作ることができるサービスで、ここ数年で利用者が急速に成長している。このような教育系SNSを利用するのも一つの方法である。

## 5. 結論

SNSを大学教育に導入するにあたり、教員や学生同士のコミュニティ形成促進、情報の取りまとめ、共同作業の場としての教育的役割が期待できる。

学業成就向上などの教育的効果に有効という学生と教員との交流には、学生の関心は高く可能性がある。しかし学生たちがフェイスブックのようなSNSに教師との交流に対する不安感があるという事実も確認されたので、これを解消するための適切な教育的活動を設計する必要があるだろう。

本研究は小規模な調査でありランダムサンプリングを行っていないことから、その結果は大学生一般の実態を代表したものでは言えない制限がある。特に回答者はオンラインの自由掲示板から自発的に参加してくれた学生に限られるので、サンプルが「協力的でコンピュータリテラシーの高い学生」に偏っている点に留意しなければならない。

## 引用・参考文献

- Ajjan, H., & Harshorne, R. (2008). Investigating faculty decisions to adopt Web 2.0 technologies: theory and empirical tests. *The internet and higher education*, 11(2), 71-80.
- Cole, M. (2009). Using Wiki technology to support student engagement: Lessons from the trenches. *Computers & Education*, 52, 141-146.
- Dick, W., Carey, L. M., & Carey, J. O. (2009). *The systematic design of instruction* (7th ed.). Upper Saddle River, NJ: Pearson.
- J. A. G. Japan (2011). *Facebook 大学別利用者数調査 (関東圏)*. Retrieved from <http://jag-japan.com/>
- Jones, N., Blackey, H., Fitzgibbon, K., & Chew, E. (2010). Get out of MySpace!. *Computers & Education*, 54, 776-782.
- Mazer, J. P., Murphy, R. E., & Simonds, C. J. (2007). I'll see you on 'Facebook': The effects of computer-mediated teacher self-Disclosure on student motivation, affective Learning, and classroom climate. *Communication Education*, 56 (1), 1-17.
- Smith, S. D., & Caruso, J. B. (2010). ECAR study of undergraduate students and information technology. Boulder, CO: EDUCAUSE, Retrieved from <http://www.educause.edu/library/resources/ecar-national-study-undergraduate-students-and-information-technology-2011-report>
- Towner, T. L., & Munoz, C. L. (2011). Facebook and education: a classroom connection?, In Wankel, C. (Ed). *Educating Educators with Social Media: Cutting-edge Technologies in Higher Education* (pp. 33-57). Bingley, U.K.: Emerald Group Publishing Limited.
- マイナビ (2012) 2013年卒 マイナビ大学生ライフスタイル調査 (携帯・スマートフォン・SNS等の利用状況について) Retrieved Dec. 1, 2012, from <http://saponet.mynavi.jp/mynavienq/20120124.html>